茨木市立　　畑田小　　学校　学力・体力向上ジャンプアップ計画

平成２７年１０月作成

1　今年度の結果と取り組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

（領域ごと）

①　話すこと･聞くこと
概ね良好な結果であった

②　書くこと
概ね良好な結果であった

③　読むこと
概ね良好な結果であった

④言語事項
概ね良好な結果であった

⑤関心･意欲･態度
（該当の問題なし）

（問題形式）

①　選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
（該当の問題なし）

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
・漢字の読み書きに関しては概ね良好な結果であった。

・話し合いの観点に基づいて情報を関連付ける問題にやや課題が残る。

国語B

（領域ごと）

①話すこと･聞くこと

②書くこと
概ね良好な結果であった

③読むこと
概ね良好な結果であった

④言語事項

⑤関心･意欲･態度

（問題形式）

①選択式
良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関連付けながらまとめて書くことや、二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くことに課題が残る。

・疑問を解決するために、目次や索引を活用して本を効果的に読むことはできていた。

分析

・長文や資料を読み取り、必要な情報の整理や関係づけて考えることに課題がある。
・字数の制限や、文型などの条件に合わせて、自分の考えをまとめて書く力をつけていく必要がある。記述式に課題。
・問題文を正しく理解し、問題にそって、情報を選択し表現する力に課題がある。
・まとめたり読むのに時間がかかったりする問題は、無解答率が高い傾向にある。
・話すこと、聞くこと、漢字の読み書きは平均点より高かった。
・選択式は良好であった。

○●算数・数学●○

算数・数学A
（領域ごと）
① と計算
概ね良好な結果であった

②量と測定
概ね良好な結果であった

③図形
良好な結果であった

④数量関係
やや課題が残る結果であった

（問題形式）
①選択式
良好な結果であった

②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
（該当の問題なし）

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

・分数の相等及び大小についての問題は良好な結果であった。

・立体図形とその見取り図の辺や面のつながりや位置関係については良好な結果であった。

算数・数学B
（領域ごと）
①数と計算
概ね良好な結果であった

②量と測定
良好な結果であった

③図形
概ね良好な結果であった

④数量関係
良好な結果であった

（問題形式）
①選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
良好な結果であった

③記述式
良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して考える問題が無回答率も高く課題が残った。

図形関係の問題は良好な結果であった

分析

・図形の問題については概ね良好である。

・数と計算については概ね良好ではある

・図や表を読み取り、自分の考えを表現する力に課題がある。

・問題から必要な情報を選択し、その情報を組み立てて解決していく力に課題がある。

・解答を求める方法を、ことばや式を使って記述する力をつけていく必要がある。

・グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることや、示されている事柄とグラフを関連付けることに課題がある。無解答の割合が多いのも課題である。

・全体的には上がってきた。

○●理科●○

算数・数学A
（領域ごと）
①物資
概ね良好な結果であった

②エネルギー
概ね良好な結果であった

③生命
概ね良好な結果であった

④地球
概ね良好な結果であった

（問題形式）
①　択式
概ね良好な結果であった
②短答式
概ね良好な結果であった

③記述式
概ね良好な結果であった
（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）

分析

・実験器具の名称を答える知識が課題である。
・領域ごとでも、問題形式でも、概ね良好な結果である。
・Ｈ２４年度に比べると、平均正答率で少しポイントが上がっている。
・「物質」「記述式」で、良好である。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

・無回答率は、良くなった。

・正答率については、昨年と比べると良くなった。

・教科別に見ると国語Ｂ問題の正答率が低い。

・全体的に良くなっている。

学力高位層と学力低位層についての分析

・高位層と低位層の差が近づいてきた。
・学力の二極化傾向が強く見られる。学力低位層は年度により差が大きいことが特徴である。今後低位層の学力保障についての取り組みが課題である。さらに取り組み、低位層をあげていのが課題である。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

各クラス・学年での取り組み

国語
・書く、まとめる学習活動を位置づけることで、書くことや記述することの力を伸ばしていく。
・毎週の読書活動で、読む習慣をつけて読書が好きになったり、読み取る力を伸ばしていく。
・読書活動と教材をつなぐことで、読書の領域を広げたり、読書の楽しみを持たせる。
・朝のスピーチ、総合学習の発表、各教科の話し合い活動を通して話す力を伸ばしていく。
・長文を読んだり資料を読み取って問題を解く形式に慣れさせる。
・授業の中で書き込みをすることで、読む力をつけたり、話し合い活動で、より読む力を深めていく。

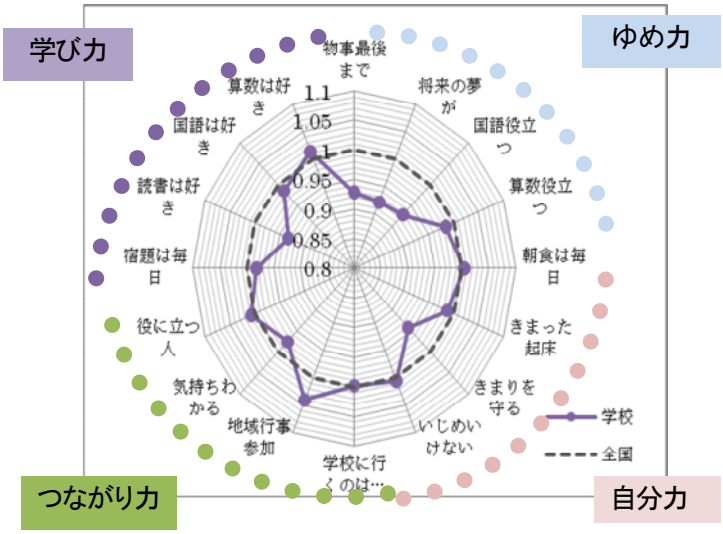
算数
・学習の中で操作活動や自分の考えを、図や絵や言葉で表す活動を取り入れることで算数の思考力を伸ばす。
・算数で使う言葉を使って学習をまとめることに慣れさせる。
・朝の学習で、ジャンプアップタイムを設け基礎的な力を伸ばしていく。（計算領域）
・高学年では、本校の課題である数量関係の力をつけるため、パワーアップタイムを設け全職員で取り組んでいく。

全校での取り組み

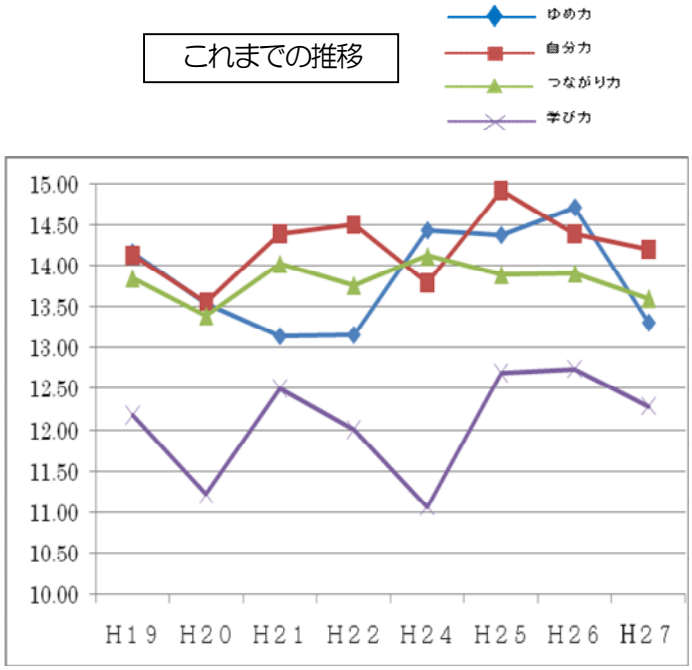
- 四則混合の計算力を高めるため、計算領域の基本的な練習を授業はじめの５分間で毎日積み重ねて力を伸ばす。
- 朝学習の時間を使って基礎・基本の力をつける。特に短時間に集中できる計算・漢字・読みを中心に積み重ねていく。
- 漢字・算数・音読を基本宿題に出し、宿題を必ずする習慣・間違い直しをする習慣をつけさせる。
- 高学年は、委員会、クラブのない６時間目や朝学習の時間等を利用し、「力だめしプリント」や新聞記事を使ったワークシートに書かせたり、まとめたりすることで、書くことの力、算数の力を伸ばしていく。
- 授業のスタンダードをつくり、全校で取り組む。
- 教科の理解度を見る到達度チェックを行い、取り組みに生かしていく。
- １時間の授業のふり返りとして、学んだことや気がついたことをまとめて書くことで、書く力や考える力を伸ばしていく。

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果



これまでの推移



分析

・ゆめ力・自分力・学び力に課題がある。

・学び力では、算数が良くなったが、国語、読書、宿題について課題がある。

・家庭学習が十分に定着していない。

・起床時刻などの生活習慣に課題がある。

・つながり力は全項目について高く、友だちや地域と繋がっていることがわかる。

・ゆめ力、将来の夢、最後まですることについて課題がある。

・自分力、決まりを守るに課題がある。

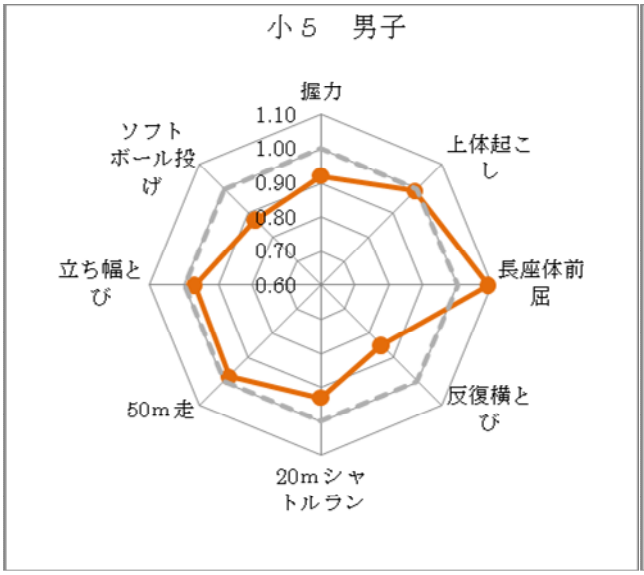
取り組み

- 家庭学習の大切さを保護者に呼びかけ協力をしてもらう。
  （取り組む時間の目安や学習内容を示した家庭学習のしおりや、新聞記事の情報などを掲載した啓発プリントを配布する。）
- テレビの視聴やゲームの時間が多かったので、生活習慣の見直しを指導し、家庭にも協力してもらう。
  （生活を振り返る週間、家族であったかタイムを推進する。）
- 情報モラル教育を各学年で系統的に取り組んでいく。
- 学校図書館支援員や図書ボランティアとの連携を深め、読書活動を推進する。
- ゲストティーチャーを招いてのキャリア教育は継続して取り組んでいく。
- ＰＴＡや地域、諸団体と連携した取り組みを継続して進めていく。

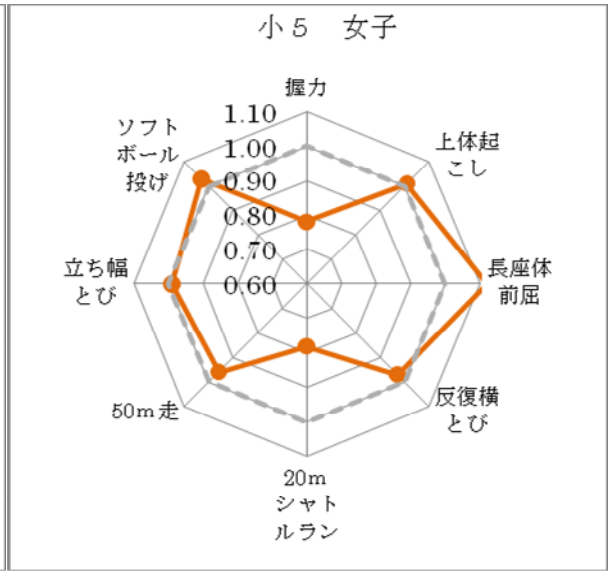
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子（小5　中2）



女子（小5　中2）



分析

○全体
・柔軟性はあるが、投力、走力、跳力など全体的にやや低い。
○男子
・ソフトボール投げ、反復横跳びが特に数値が低い。同じような運動をふだん取り入れていない（経験が少ない）と思われる。
○女子
・握力、シャトルランの数値がかなり低い。
・計測上の誤差も考えられるので、計測に慣れさせることも必要。

取り組み

○体育の授業で、体力アップをはかる。
・低学年からいろいろな運動を経験させる。
・スポーツテストの種目を「力だめし」として捉え、定期的に実施するなどして、児童の意欲を高める。
・授業に、楽しくチャレンジする内容を取り入れていく。
・シャトルランや反復横跳びを授業の準備運動などに取り入れる。
・茨木っ子運動を取り入れる。
・縄跳びカード、マラソンカードなどで意欲的に取り組める工夫をする。
・長縄やゲームで協力して運動できるようにする。

2 ３年間の計画

（各校）　　（ブロック共通）

	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	基礎学力の定着	基礎体力の向上	校区共通の課題の克服
平成26年度	・畑田スタンダードを検討し、重点目標を共通理解し、実行させる。 ・畑田のきまり（家庭学習・生活習慣）を検討する。 ・教科の理解度を見る到達度チェックを検討する。（漢字・計算） ・基礎学力の定着をはかる取り組みを検討する。漢字・算数の四則計算を学年に応じて継続して取り組む計画を立てる。 ・基礎学力・活用力をつけるパワーアップタイムの計画を立てる。（高学年）	・体育授業での運動量を向上させる取り組みを考える。 ・授業パターンを検討し、畑田小の授業スタンダードを作成する。 ・茨木っ子運動をどう活用するのか検討する。	・２か月に１度程度、小中教務会を実施。 ・各小学校へ週に一度、中学教員が訪問。 ・校区小中学校の授業スタンダードの交流・すりあわせ ・小中合同授業研を中学校で実施。 ・小中合同研修会（生徒指導等）の実施。 ・体力向上、生徒指導、自主活動、支援教育など、各部会で、連携会議を実施し、協同の取組みを行う。
平成27年度	・畑田の授業スタンダードを作成する。 ・畑田のきまり（家庭学習・生活習慣）を作成し、家庭へも啓発する。 ・到達度チェックを試験実施し、課題を把握する。 ・基礎学力定着（ジャンプアップタイム）の実施。漢字・算数の四則計算を学年に応じて継続して取り組む。 ・「力だめしプリント」活用力のワークシートを使い、パワーアップタイムを実施する。	・持久力、走力を高める運動に学校ぐるみで取り組む。（マラソン大会など） ・授業パターンに基づいた体育の授業を行う。 ・茨木っ子運動を活用して、体幹を鍛える。	・２か月に１度、西中学校区保幼小中連携会議を実施。 ・各小学校へ週に一度、中学教員が訪問。 ・小中で教科会を実施。 ・小中合同授業研を春日小・西中で実施。 ・小中合同研修会（生徒指導等）の実施。 ・体力向上、生徒指導、自主活動、支援教育など、各部会で、連携会議を実施し、協同の取組みを行う。

平成28年度	・畑田の授業スタンダードに基づいた授業を行う。 ・畑田のきまり（家庭学習・生活習慣）を定着させる。 ・到達度チェックを実施し、各学年で課題のある所を継続して学習する。 ・ジャンプアップタイム・パワーアップタイムを充実させる。 ・取り組みの評価。	・平成２６年度・２７年度の取り組みを修正しながら、運動量を増やす取り組みを行う。 ・授業パターンを見直し、より良いものにして、実践する。 ・茨木っ子運動を継続して活用する。	・2か月に１度、西中学校区保幼小中連携会議を実施。 ・各小学校へ週に一回中学教員が訪問。 ・小中で教科会を実施。 ・小中合同授業研を西中学校区すべての学校で実施。 ・小中合同研修会（生徒指導等）の実施。 ・体力向上、生徒指導、自主活動、支援教育など、各部会で、連携会議を実施し、協同の取組みを行う。